

持続可能な食品物流に向けた取り組みについて



首都圏SM物流研究会

サミット(株)・(株)マルエツ・(株)ヤオコー・(株)ライフコーポレーション

2023年4月28日

■ 目次

1. 取り組みの背景
2. 非効率な事が生じる原因
3. 取り組み概要
4. 各取り組みについて
5. 取り組みの実行に向けての対応
6. 今後の計画

1. 取り組みの背景

■ 取り組みに向けての経緯

◆ 物流分野の現状

- トラックドライバーの不足（厳しい労働環境と全産業平均を下回る収入状況）
- 需要の増加（EC市場の拡大、消費者ニーズ多様化による多品種・小ロット輸送増加）
- 更なる供給制限のおそれ（2024年度から働き方改革関連法施行）
→食品物流における従来型の発注から納品までの工程維持が困難になりつつある



◆ 行政における取り組み

「物流施策大綱」、「荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン（加工食品、飲料・酒物流編）」

◆ フードサプライチェーン・サステナビリティプロジェクト（FSP）

- 製・配・販の各団体が参画し、2022年4月発足
- 持続可能な加工食品物流構築に向けて課題や実態を情報共有し、サプライチェーン全体の最適化に向けた取り組みを検討
- 検討課題 ①定番商品における発注時間の見直し
②特売品・新商品におけるリードタイムの確保および計画発注化
③納品期限の緩和（2分の1ルール）



日本スーパーマーケット協会の正副会長企業である首都圏4社が協議

このような動きを踏まえ、食料品の安定供給維持に向けて、今までの取り組みを見直し、食料品流通網のあり方を再構築するための取り組みを進めていく

2. 非効率な事が生じる原因

■ 非効率な事が生じる要因

欠品すると小売・卸に怒られるから余計に在庫持たなきゃ

欠品すると店舗に怒られるから余計に在庫持たなきゃ

欠品するとお客様に失礼だから余計に在庫持たなきゃ

メーカー



物流センター
(卸売・小売)



店舗

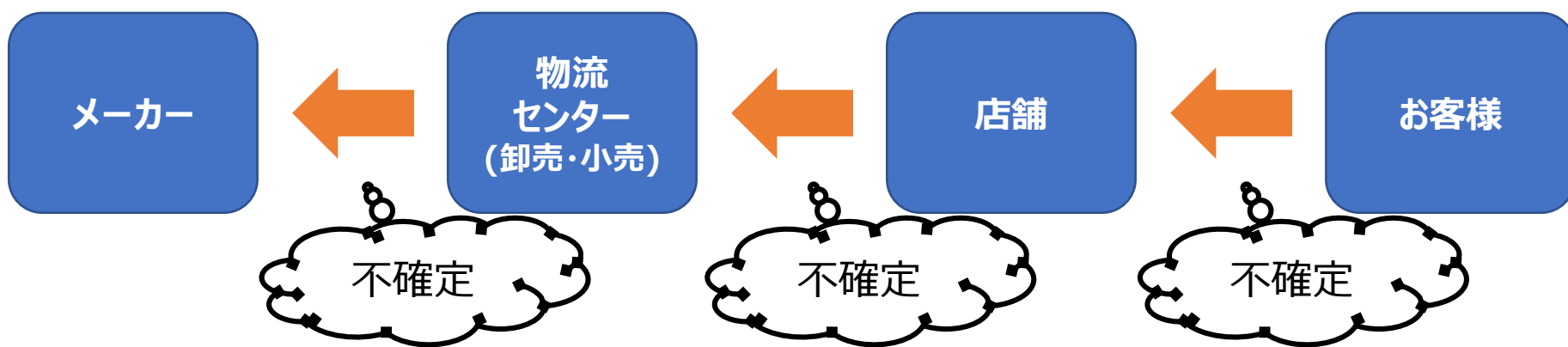


お客様

➤ 川下からひとつ川上に向かってのプレッシャーの連続が原因

■ 非効率な事が生じる要因

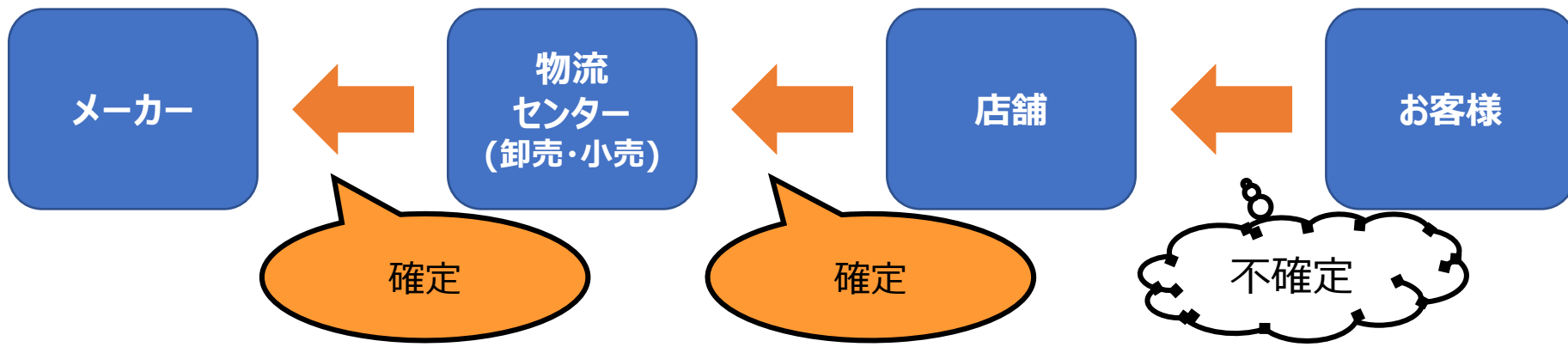
改善前 部分最適



➤ 不確定要素が多く在庫が増加 = 効率の悪化



改善後 全体最適を目指す



➤ 確定で商品を動かすので在庫が減少 = 効率の改善

3. 取り組み概要

参考：2022年度「サプライチェーン イノベーション大賞」最終ページ

『食品物流未来推進会議(SBM)・日食協物流問題研究会・納品リードタイム延長問題WG 発表』

②-C) : 主な検討テーマ

27

実態調査・見える化を行い、業界標準や統一化の動きをとっていく。

① 小売→卸 の受発注締め時間

12時までの受注
↑

② 特売の受注・納品リードタイム設定

8日ルールの補
足

③ 納品期限の緩和

2分の1許容へ

まず第一に物流テーマとして、「**加工食品流通の納品リードタイム延長問題**」を取り上げ、リードタイム延長がもたらす効果を共有し、その実現のために製配販3層それぞれが取り組むべき施策について議論し、アクションプランとして纏める。

検討・実験の段階から100%実行へ

■ 全体最適で効率の改善を目指す

➤ 商品を確定数で運んで中間在庫を減らすために・・・

1. 加工食品における定番商品の発注時間の見直し
2. 特売品・新商品における発注・納品リードタイムの確保

➤ 減った在庫で食品ロスをさらに減らすために・・・

3. 納品期限の緩和 1/2ルールの採用

➤ 上記をさらに効率化するために・・・

4. 流通BMSによる業務効率化

■ 物流課題解決に向けた取り組み

(1) 加工食品における定番商品の発注時間の見直し

加工食品における定番商品の店舗発注時間を前倒し

→お取引先様の夜間作業の削減および調整作業時間確保の実現

(2) 特売品・新商品における発注・納品リードタイムの確保

特売品・新商品の計画発注化を進める

確定した発注データをもとに商品や車両の手配ができる環境を整備

→緊急手配等の作業負担軽減、積載効率および実車率の向上

(3) 納品期限の緩和（1/2ルールの採用）

180日以上のお賞味期間の加工食品における「1/2ルール」採用

→商品管理業務の負担軽減による食品物流効率化への貢献

(4) 流通BMSによる業務効率化

卸売業と小売業間の受発注方式における標準化された流通BMSの導入

→高速通信による作業時間確保、伝票レス・検品レスによる業務効率化

4. 各取り組みについて

(1) 加工食品における定番商品の発注時間の見直し

① 現状

小売の発注から納品までのリードタイムが1日であることが多い



- ・メーカーにおける出荷準備に必要な時間が十分確保されていない
 - ・翌日納品であるため、メーカーにおいて夜間作業が発生
 - ・物量予測による車両手配のため、積載効率が悪い
- トラックドライバー不足が加速すると、安定的な納品が困難になる

現状	1日目		2日目		3日目	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM
小売		発注		発注		
卸売		受注		受注		
メーカー	発注		入荷【予測2回分】			
	受注	↑				

・出荷準備に必要な時間が十分ではない
 ・夜間作業が発生
 ・物量予測による車両手配で、積載効率が悪い

出典：FSPご提供資料より

(1) 加工食品における定番商品の発注時間の見直し

② 物流課題解決に向けたあるべき姿

(1)メーカー・卸売間の納品リードタイム延長（1日→2日）

(2)小売における定番商品の発注時間見直し（午前中への前倒し）

→夜間作業の削減および調整作業時間確保

③ 対応と状況

・4社すべてが、前日に発注を締めて、翌日朝（午前5～午前8時）までに、卸売各社が発注データを受信していることを確認

→今後も取り組みを継続

小売における定番商品発注時間見直し

アクション 発注締め時間調整	1日目		2日目		3日目	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM
小売	発注		発注		発注	
卸売	受注		受注		受注	
メーカー		発注			入荷【予測2回分】	
		受注			↑	

メーカー・卸売間の納品リードタイム延長

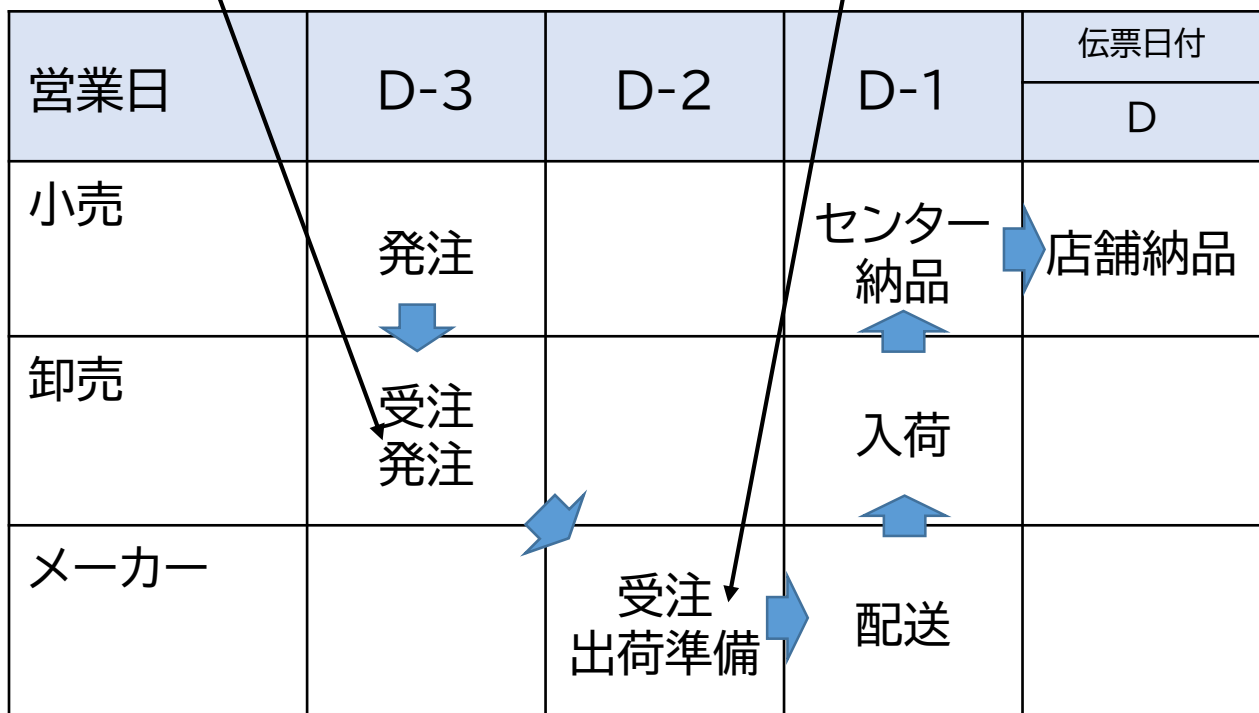
出典：FSPご提供資料より

(2) 特売品・新商品における発注・納品リードタイムの確保

① 現状の特売品・新商品リードタイムについて

納品を間に合わせるため、小売受注を待たずに発注
→予測がズレると過不足発生

調整業務・配車時間が確保できていない
→夜間作業や緊急車両が発生



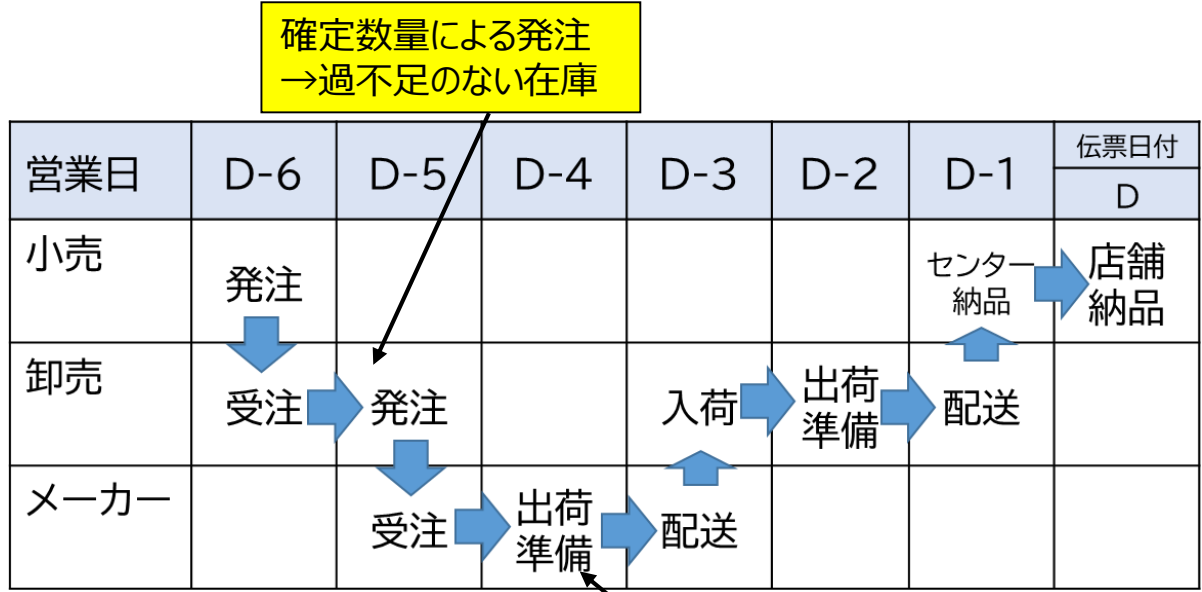
今後トラックドライバー不足が進むと、車両手配も困難に
→従来型の納品工程が維持できず、商品が店舗に届かない可能性もある

出典：FSPご提供資料をもとに作成

(2) 特売品・新商品における発注・納品リードタイムの確保

② 物流課題解決に向けたあるべき姿

特売品および新商品における（追加を含む）6営業日前計画発注化



確定数量による発注
→過不足のない在庫

リードタイム確保
→出荷準備効率化、夜間作業の削減

出典：FSPご提供資料をもとに作成

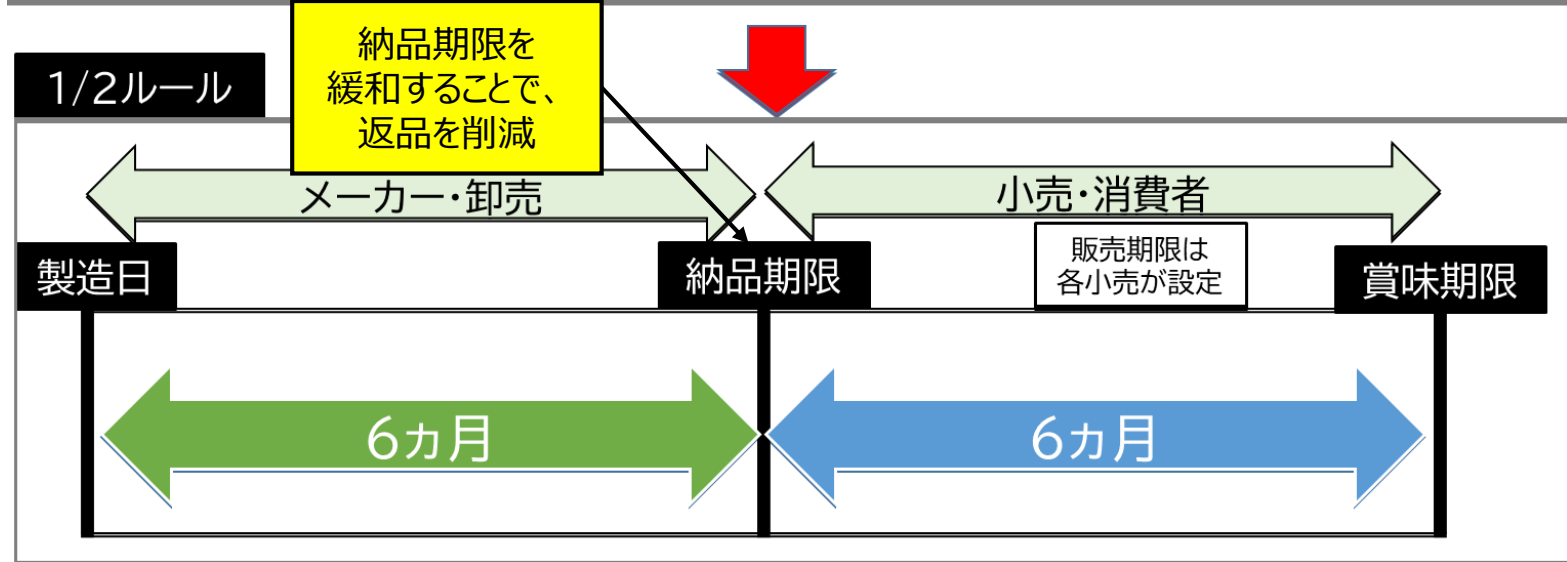
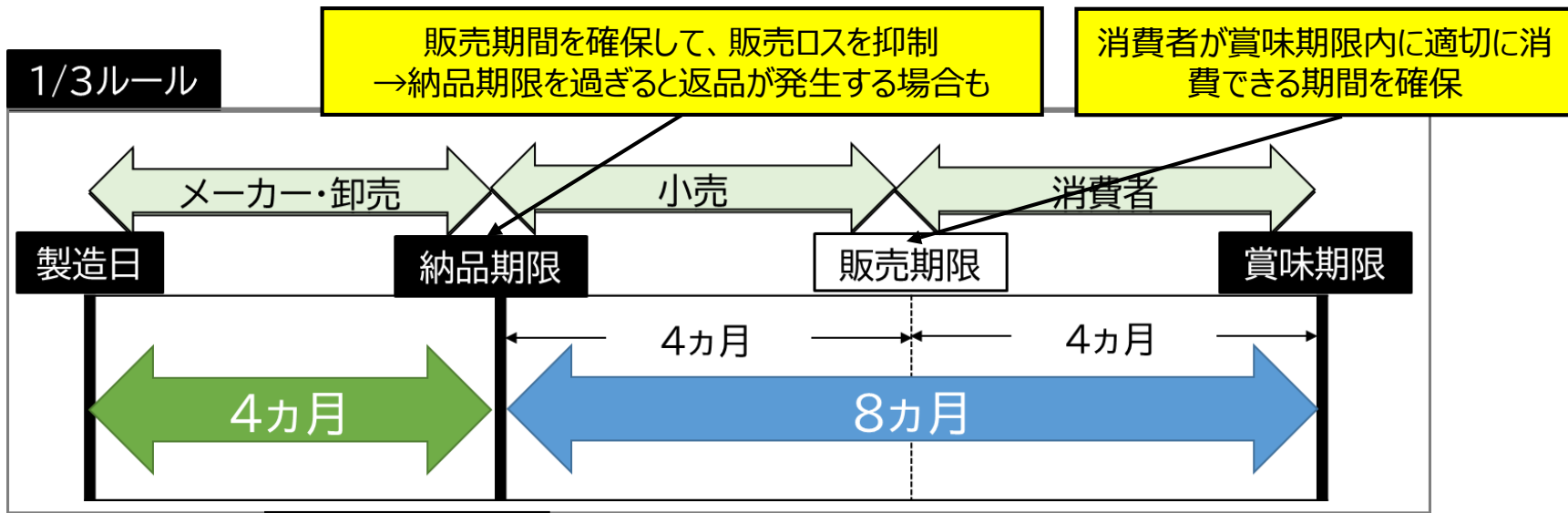
③ 対応策

- ・各社の専用センターにおいて、6営業日以上発注・納品リードタイムを確保
- ・特売品および新商品における精度の高い計画発注の実施
- ・特売品における追加発注の抑制
- ・新商品（定番外商品）における追加発注を不可とする

(3) 納品期限の緩和(1/2ルールを採用)について

① 納品期限ルールとは…

・製造日から賞味期限までの間に小売業への納品期限、販売期限を設定

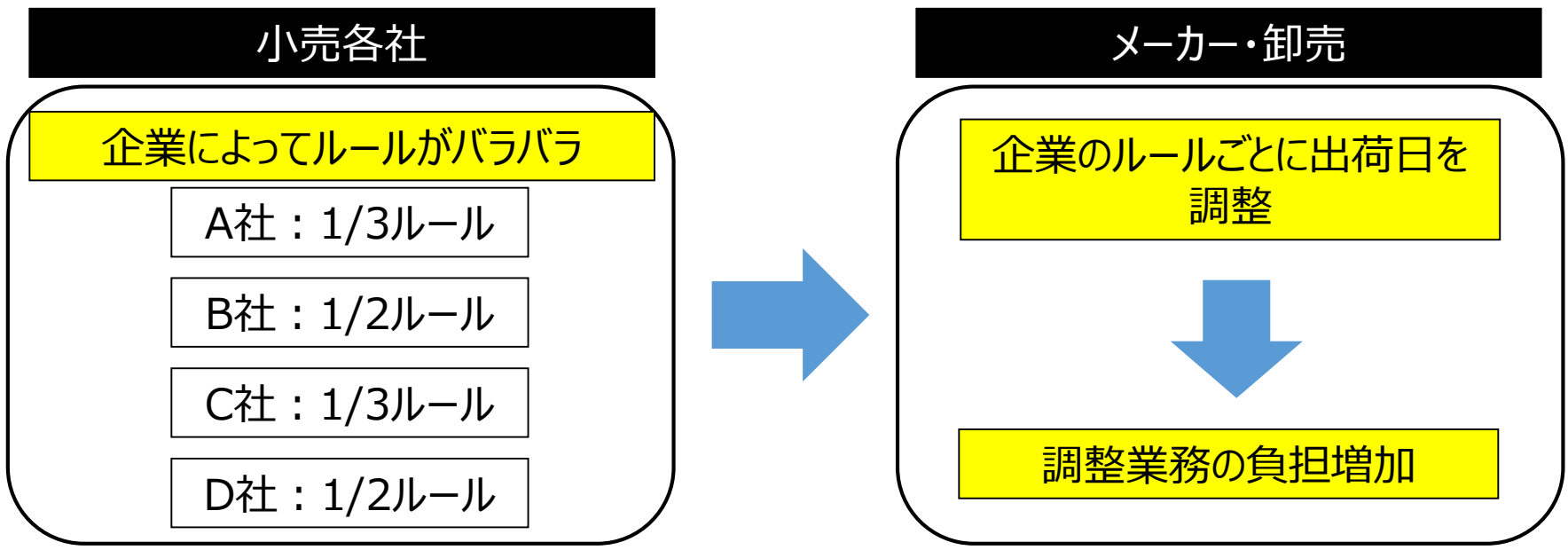


(3) 納品期限の緩和(1/2ルールを採用)について

② 課題

納品期限ルールが企業ごとに異なるため、メーカーや卸売業にて出荷日調整作業など商品管理業務の負担増加が発生

→賞味期限180日以上加工食品に対する1/2ルールへの統一が提案



③ 対応と状況

- ・ヤオコー・ライフコーポレーション ⇒ 1/2ルール採用済み
- ・サミット・マルエツ ⇒ 採用に向け検討

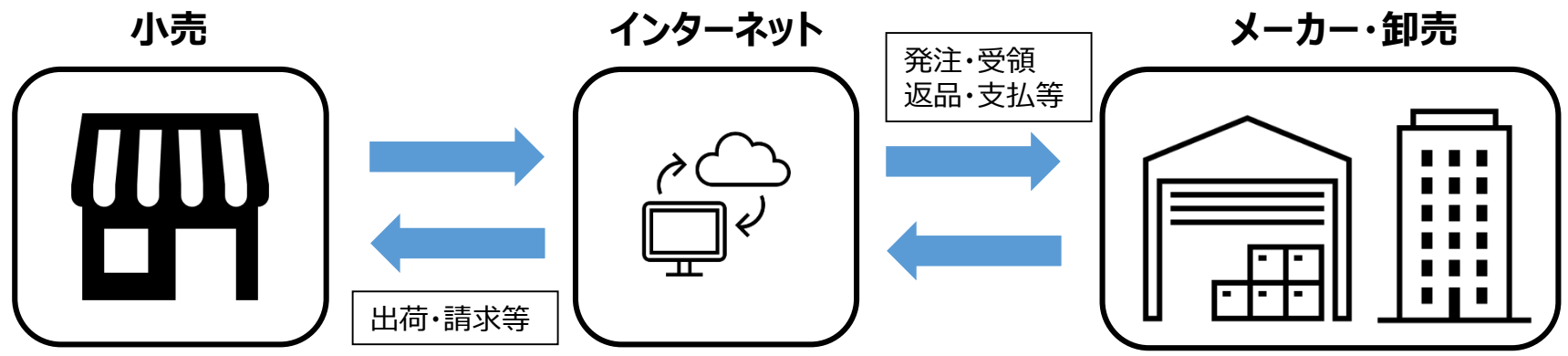
(4) 流通BMSの推進

① 流通BMSとは

- ・流通ビジネスメッセージ標準(Business Message Standards)の略称
- ・流通業者が利用できるEDIの仕様で、発注・出荷・受領・返品・、請求・支払といった取引を電子データでやりとりする仕組み
- ・インターネット回線を通じて利用可能
 - 高速通信により、従来よりもお取引先様の作業時間を確保する事が可能

② 対応と状況

- ・4社は流通BMSを導入済み
 - 検品レス化、伝票レス化による業務効率化を推進



インターネット回線を通じて、取引データをやりとり

5. 取り組み実行に向けての対応

■ 協議開始時点の各社の状況

	対 応 項 目	サミット	マルエツ	ヤオコー	ライフ
①	定番商品発注のデータ受信前倒し	○	○	○	○
②	特売品・新商品のリードタイム確保	×	○	×	×
③	「1/2ルール」への統一	×	×	○	○
④	流通BMS導入による業務効率化	○	○	○	○

- ①・④については既に解決済み
- ②・③について各社対応開始

■ 「1/2ルール」への統一 各社の状況と対応

- サミット・マルエツの2社が未導入
- ヤオコー・ライフより導入後の状況やマスタの変更方法等の情報共有を行い実施に向けてのハードルを下げる

➤ サミット

【社内調整】

- 営業会議の中において、首都圏4社協議会で共通の内容で取り組む事の重要性を説明し理解を得る
- 2023年3月より随時変更

➤ マルエツ

【社内調整】

- SDGsフードロス撲滅の観点から、商品部・店舗と認識を共有し、4社での取り組み、影響等からも協力を得る
- 店舗での日付管理運用方法も簡素化し作業軽減も図れた
- 2023年4月より随時変更

■ 特売・新商品のリードタイム確保 各社の状況

- マルエツのみ解決済み
- 協議を進める中で、どの段階で発注から納品まで中8日(営業日6日)必要なのか議論となる
- 提案側の日本加工食品卸協会・三菱食品・国分の方と直接対話
- サミット・ライフ・ヤオコーそれぞれ問題が異なると説明を受ける

卸売業・小売業が個々ではなく数社で直接対話

連携

解決に向け大きな前進

- 新商品の追加発注について改善が必要と判明 サミット・ライフ
- 発注納品リードタイムの延長が必要と判明 ヤオコー・ライフ

■ 特売・新商品のリードタイム確保 各社の対応

➤ サミット

【課題】:特売の追加発注の物量予測が難しい

【社内調整】

- 店長・チーフ会議等で重要性について説明を継続的に実施
- 直近の発注データでは、事前発注:追加発注 = 8:2に改善

➤ ライフコーポレーション

【課題】:①特売発注の納品リードタイムが6営業日必要に対し1日短い

②定番未導入新商品の追加発注の物量予測が難しい

【社内調整】

- 持続可能な加工食品物流実現のために「絶対にやらなければいけない」事を商品部と共有
- 商品部+物流部一体となって店舗に取組みの必要性を丁寧に説明し理解を得る
- 特売発注のリードタイムを5→6営業日に変更 2023年4月より
- 定番外新商品は確定数で発注に変更 2023年4月より

■ 特売・新商品のリードタイム確保 各社の対応

➤ ヤオコー

【課題】:特売発注の納品リードタイムが6営業日必要に対し1日短い

【社内調整】

- 商品部・販売部に変更の必要性を説明し理解を得る
- システムの変更スケジュールを確認し変更実施日を決定
- 取引先説明会を実施し、取引先の理解を得る
- 最終的にはリードタイムを2日延長 2023年5月中旬より変更

■ 2023年3月16日 4社による記者発表会



- ① 持続可能な食品物流に向けた取り組みに関する発表
- ② 首都圏SM物流研究会発足の発表

6. 今後の計画

■ 今後の取組みについて

➤ 首都圏SM物流研究会の発足

◆目的

「2024年問題」をはじめとする物流危機を回避し、地域の生活を支える社会インフラとしての責務を継続して果たすため、物流分野を各企業間の「競争領域」ではなく「協力領域」と捉えて、各社の協力による物流効率化策を研究・検討する

◆参加企業

サミット(株)・(株)マルエツ・(株)ヤオコー・(株)ライフコーポレーション

◆発足日

2023年3月16日

◆取組み内容

- ・各社協力による物流効率化策
- ・サプライチェーン全体の効率化につながる施策

■ 第1回研究会の内容・決定事項

➤ 研究・検討内容について

- サプライチェーン上の**全体最適**が図れる改善をする
- そのためにメーカー・卸売業の方々とも情報共有を行い、一番の困り事と改善効果の高い課題を優先的に解決する
- SM業界のみの部分最適課題も各社間で情報共有を行い解決する

➤ 新規入会の条件

- 今回の4つ取り組みについて解決済みか解決予定済みを最低限の条件とする
- 必要以上に入会のためのハードルは上げない
- 取り組みについての**経営層の理解**は必須とする
- ある段階でまとまりが無くならないように社数の上限は今後設ける

以上

首都圏SM物流研究会

